

小 学 校

平成 2 8 年度

教育研究員研究報告書

外国語活動

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	目指す児童像	1
III	研究仮説	2
IV	研究の視点	
1	外国語を用いたコミュニケーションにおける適切な反応の仕方について	2
2	振り返りを生かす工夫について	3
V	研究方法	4
VI	研究構想図	5
VII	研究内容	
1	検証授業	6
2	検証方法と結果	18
VIII	研究の成果と課題	22
	補足資料 振り返りカード・適切な反応の表現例について	24

研究主題

外国語を用いてコミュニケーションを図ることを
「楽しむ」児童の育成 ～やり取りに自信をもたせる工夫を通して～

I 研究主題設定の理由

社会や経済のグローバル化が急速に進展し、異なる文化の共存や持続可能な発展に向けて国際協力が求められている。特に、東京には様々な宗教・文化的背景をもった外国人が暮らしているとともに、日本を訪れる外国人の数が増加しており、平成 27 年には、過去最高の人数を記録している。外国人とのコミュニケーションに必要な「生きた英語」を学ぶことはもとより、豊かな国際感覚の醸成や日本人としての自覚と誇りのかん養に取り組み、いわゆる「内向き志向」を打破し、自信をもち、世界で活躍する人材を育てることが必要である。

小学校学習指導要領の外国語活動では、音声を中心に外国語に慣れ親しませる活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深めるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、コミュニケーション能力の素地を養うことを目標として様々な活動を行うとしている。分からない英単語が出てきても、限られた外国語の知識を意欲的に用いて、表現方法などを工夫しながら、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成することが求められている。また、社会状況や今日的な教育課題を踏まえ、文部科学省は「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」の中で、外国語活動型の目標の中にコミュニケーションの素地を養うために「英語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること」を挙げている。

平成 25 年度教育研究員小学校外国語活動部会が行った調査結果によると、外国語活動が楽しいと答えている児童の割合は 85%であった（調査対象 1552 人）。理由として「ゲームが楽しい」が 24.4%で最も多かったのに比べて、「友達のことを知ることができる」を選んだ児童の割合は 7.3%で最も少なかった。このことから、児童がコミュニケーション活動そのものに楽しみを見いだせていないことが推測される。また、外国語活動で大切だと思うことについて、最も回答数の多かったものが「しっかり聞くこと」、続いて「自分や友達のよさを見付けること」「伝え合うこと」となっている。つまり、コミュニケーション活動が大切であると思っても、その活動自体を児童は「楽しい」と感じていないことが分かる。

これらのことから、外国語を用いてコミュニケーションを図ることを「楽しむ」児童を育てるために、「外国語を用いてコミュニケーションを図ることを『楽しむ』児童の育成～やり取りに自信をもたせる工夫を通して～」と研究主題を設定した。

II 目指す児童像

本研究では、目指す児童像を「外国語を用いてコミュニケーションを図ることを『楽しむ』児童」とした。

東京都教育委員会の「互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間（中略）の育成に向けた教育を重視する。」という教育目標や、過去の教育研究員の実態調査、今年度の教育研究員所属校の児童の実態を踏まえ、相手の思いを理解しようとしてコミュニケーション

を図ることが重要だと考えた。一方的に思いを伝えようとする積極性だけではなく、多様な人々とのやり取りを通して、相手の意見を尊重し、理解しようとする相互理解を中心としたコミュニケーションを図る主体性こそが、今後のグローバル社会で生きるために身に付ける必要がある資質であると考えたからである。

また、ここでいう「楽しむ」とは、外国語を用いてコミュニケーションをする中で、相手の思いが理解できた、自分の考えが伝わったといううれしさや喜びを感じることである。

Ⅲ 研究仮説

外国語を用いたコミュニケーションを図ることを「楽しむ」ためには、外国語を用いたコミュニケーションを図ることのよさを実感する体験を積み重ねることが重要だと考えた。

しかし、外国語を用いてコミュニケーションを図ることに対する苦手意識がある児童は、そのよさを実感する前にあきらめてしまうこともあるのではないかと推測した。そこで、外国語を用いたコミュニケーションにおける適切な反応の仕方を児童に指導することや、コミュニケーションが得意ではない児童に対して振り返りを生かした個別の指導や支援をすることにより、やり取りに自信をもたせることができると考えた。

以上のことより、次の仮説を設定した。

外国語活動において、やり取りに自信をもたせる工夫をすれば、コミュニケーションを図ることを「楽しむ」児童が育つだろう。

Ⅳ 研究の視点

1 外国語を用いたコミュニケーションにおける適切な反応の仕方について

小学校学習指導要領の外国語活動では、外国語でのコミュニケーションを体験させるにあたり、主としてコミュニケーションの場面や働きを取り上げるとしている。

その一つとして、「相手との関係を円滑にする」ことが示されている。その例として、礼を言うときの“Thank you.”、褒めるときの“*That’s right.*” “*Good.*”、丁寧表現の“～, please.”などが挙げられている。

これらのような相手との関係を円滑にする外国語の表現（補足資料 P. 24）を用いたり、表情や目、相づちで共感を伝えるなどの非言語を活用したりするといった適切な反応をすることによって、外国語を用いたコミュニケーションがより活性化していくのではないかと考えた。

このような表現を用いて教員が場面に応じた適切な反応の仕方を指導したり、適切な反応をしている児童の言動を価値付けたりすることで、児童は外国語を用いたコミュニケーションをより円滑に図ることができると思われる。

そして、外国語を用いたコミュニケーションをより円滑に図ることができるようになれば、「相手の思いを理解して、応えよう。」「相手がよく反応してくれるから、もっと自分の考えを伝えたい。」と感じ、他者とコミュニケーションを図ることを「楽しむ」児童が育成できると考えた。

2 振り返りを生かす工夫について

外国語を用いてコミュニケーションを図ることを「楽しむ」児童を育成するためには、外国語によるコミュニケーションを通じて、自分自身の考えが深まったり、新しい発見をしたりすることを児童が認識し、自信をもつことができるような学習活動を設けることが重要である。

また、児童が興味をもって取り組むことができる言語活動を易しいものから段階的に取り入れたり、自己表現活動の工夫をしたりするなど、様々な手だてを通じて児童の「主体的に学習に取り組む態度」の高まりを目指した指導をすることも大切である。

「東京都教育ビジョン（第3次・一部改定）」における五つの視点には「学んだことを実際の生活や課題解決の場面に生かす体験的な活動などを積極的に導入することが必要である。これらの教育活動を重視し、子供の思考力・判断力・表現力や想像力等を育てる」とある。そして、外国語活動において、コミュニケーションを図る必然性のある活動を設定することの重要性については、昨年度の教育研究員小学校外国語活動部会が取り組んでいる。

そこで、コミュニケーションを図る必然性のある学習活動を最終時間に設定した単元計画を教室に掲示する。「外国語を使って何ができるようになるか」を示すことによって、児童は見通しをもち、めあてをもって学習に取り組める。

上記の成果を踏まえつつ、新たな視点として、「振り返りを生かす工夫」を取り入れる。授業の最後に児童に自らの学習を振り返らせカードに書かせたり、使用したワークシートをポートフォリオ化させたりすることで、児童自身が、自分の学びを継続的かつ客観的に捉えることができるからである。

「外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ」（平成28年8月26日 文部科学省）の4（2）「主体的・対話的で深い学び」の実現の項では、「情報や考えなどを発信したり、評価したりするために、自らの学習活動を振り返って次の学習につなげることが重要である。」と述べられている。

振り返りを記入させる際には、友達への頑張りや自分のよさ、適切な反応の仕方、コミュニケーションに関する学びにも着目させることで、外国語を用いたコミュニケーションを円滑に行うことのできる環境づくりを意図した。さらに、授業開始時に前時の復習だけでなく、外国語を用いたコミュニケーションを楽しんで行っている児童の振り返りの記述内容を共有することを通して、コミュニケーションを図る際のポイントや心構え等をクラス全体に意識付けた。

また、振り返りカード（補足資料P.24）は、B6サイズ4枚分を、B4サイズ1枚にまとめ、児童が、前回と比べて自分自身の成長を実感できるようにした。教員も、授業中に見取りに加えて、振り返りカードに書いてある内容から、児童一人一人の活動状況や変容が見えやすくなり、次時に向けた個別の指導や支援がより適切に行えるようになると考えた。

特に、外国語を用いたコミュニケーションに対する自己評価が低い児童については、コミュニケーションが図りやすくなるようペアの作り方を配慮した。また、外国語のやり取りを事前に指導する等の個別支援をすることで、外国語を用いたコミュニケーションに自信をもって取り組むことができるようにした。

V 研究方法

1 基礎研究

次の方法により外国語活動及び英語教育の現状・方向性の把握、児童の実態把握を行った。

- ・文部科学省「教育課程特別部会（第7期）（第19回）配布資料」（平成28年8月1日）、コミュニケーション教育推進会議「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために」（平成23年8月29日）、東京都教育委員会「東京都教育ビジョン（第3次・一部改定）」（平成28年4月）及び「小学校外国語活動の一層の充実に向けて」（平成26年3月）、「小学校外国語活動の円滑な実施に向けて」（平成25年3月）、「小学校外国語活動Q&A」（平成22年3月）、「東京都小学校外国語活動推進委員会報告書」（平成21年3月）等の内容把握と学習指導要領解説外国語活動編の内容の分析
- ・過去の教育研究員小学校外国語活動部会が実施したアンケートの分析
- ・教育研究員が授業を行う学級児童を対象としたアンケート調査による課題分析

2 実践研究

基礎研究を踏まえ、研究の視点をしぼり、それぞれについて具体的な手だてを構想した。また、その効果を検証するための授業を実施した。

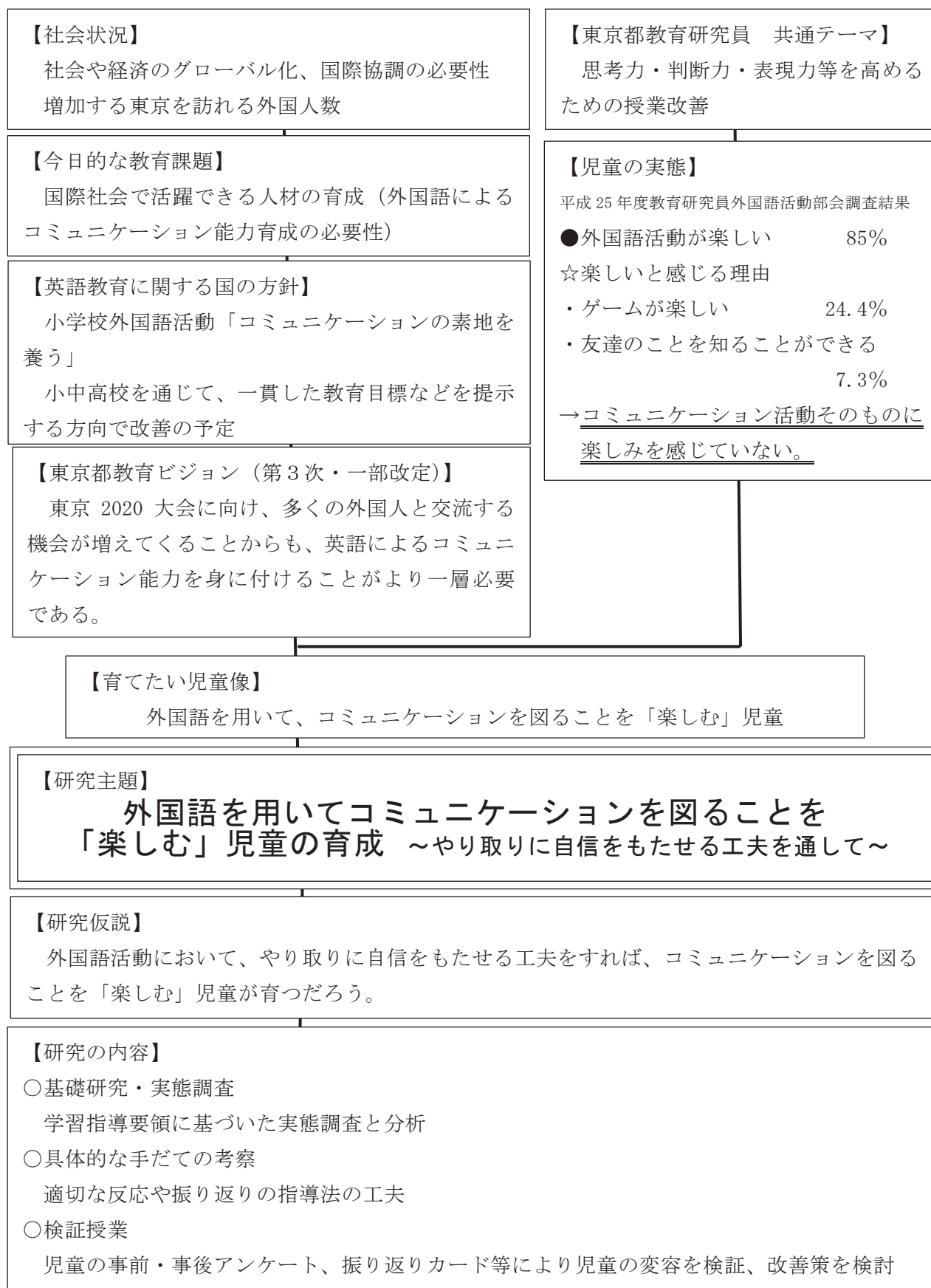
3 研究のまとめ

検証授業の実施後に、児童のアンケート結果や振り返りカード、見取った児童の活動等から授業の分析を行い、研究の仮説及び手だての有効性について考察した。また、3回の検証授業における成果と課題を踏まえ、「コミュニケーションを図ることを『楽しむ』児童」が増えるような具体的な手だてをまとめた。

4 研究の計画

月 日	内 容	会 場・授 業 者
4月28日（木）	年間計画作成	東京都教職員研修センター
5月26日（木）	研究主題等について協議	立川市立若葉小学校
6月6日（月）		中央区立月島第一小学校
7月11日（月）		三鷹市立高山小学校
8月17日（水）～ 8月19日（金）	御岳宿泊研修会	青梅市御岳 宿坊
8月29日（月）	検証授業等について協議	港区立白金小学校
9月9日（金）	検証授業① “What do you like?”	中央区立月島第一小学校 第5学年 田中 貴子
10月24日（月）	検証授業② “What’s this?”	立川市立若葉小学校 第5学年 佐野 吾由美
11月4日（金）	検証授業③ “I study Japanese.”	三鷹市立高山小学校 第5学年 亀山 宏美
12月6日（火）	研究報告書作成	港区立白金小学校
1月16日（月）	研究発表会に向けての準備	大田区立蒲田小学校
2月16日（木）		
2月17日（金）	研究発表会 “Turn right.”	大田区立蒲田小学校 第6学年 可児 亜希子

VI 研究構想図



Ⅶ 研究内容

1 検証授業

検証授業では、児童がコミュニケーションを図ることを「楽しむ」ための手だての検証と改善策の検討を行った。

【検証授業1】(第5学年の実践)

(1) 単元名 “What do you like?” 「友達にインタビューしよう」

“Hi, friends! 1 Lesson5”

(2) 単元の目標 ア 好きな物について、積極的に尋ねたり答えたりしようとする。

イ 色や形、好きな物は何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。

ウ 日本語と英語の音の違いに気付く。

(3) 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 外国語への慣れ親しみ	ウ 言語や文化に対する 気付き
好きな物について積極的に尋ねたり答えたりしようとしている。	好きな物は何かを尋ねたり答えたりして表現に慣れ親しみ、それらを用いながら活動している。	日本語と英語の音の違いに気付いている。

(4) 単元の内容

本単元では、“What~do you like?” “I like~.”などの表現に慣れ親しみ、相手に聞きたいことを英語で尋ねたり答えたりする活動を通して、他者と関わり合い、コミュニケーションを図ることを「楽しむ」児童を育てることをねらいとした。初めてWhatの表現が入り、答えがYesやNoだけではないため、コミュニケーションの幅が一気に広がると思われる。そのやり取りの中で、相手の質問や答えに対し、適切な反応をすることで、より活発な関わり合いができると考えた。児童がより反応しやすくするため、相手の答えを繰り返したり、褒めたりする表現に少しずつ慣れさせた。また、質問の内容は児童の興味・関心に沿った好きな色や形の他、この夏のリオデジャネイロオリンピックに関することなどにした。

これまで知らなかった友達の意外な一面や、自分と同じであったり違ったりする面を「フレンドTシャツ」にまとめ、児童同士が互いを見つめ大切に思う機会とした。

(5) 単元の指導計画と評価計画

時	◎ねらい ・主な学習活動	○留意点 ☆やり取りに自信をもたせる工夫	評価規準
1	◎色や形の言い方に慣れ親しむ。好きな物は何かを尋ねる表現を知る。 ・ポインティングゲーム ・カラータッチングゲーム ・ミッシングゲーム	○既に知っている色や形だが、ALTの発音を通して、英語での発音が違うことに気付かせる。 ☆ゲームでうまくいった児童、うまくいかなかった児童に対しての、適切な反応の仕方を、デモンストレーションを通して、気付かせる。 【Very good! Close. Nice try!】	ウ

2	<p>◎好きな物は何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャンツ <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px 0;">インタビュー時のポイント</p> <p>①アイコンタクト&スマイル ②話したいことをはっきり伝える。 ③相手の質問や答えに反応する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランキングゲーム 互いに好きな色を聞き、インタビューカードにメモする。時間が来たら、インタビュー結果を見て、クラスの好きな色ランキングを予想する。 ・一人一人好きな色を発表し、クラスの好きな色ランキングを作る。そして、予想と比べる。 	<p>○ALTが児童の反応を見ながら、速さや回数を調整して発音することで、英語と日本語の相違点に気付くことができるようにする。</p> <p>○インタビューして答える児童には戸惑わず答えられるように、あらかじめ自分の答えを考えて記入させる。</p> <p>★インタビュー活動では、相手の答えに適切な反応の仕方をするよう、デモンストレーションを通して気付かせる。 【Here you are. Please. Thank you. Good! Very good! Oh, ~. Nice color.】</p>	イ
3 本 時	<p>◎好きな物は何かを尋ねたり答えたりして、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー活動① (隣の席の児童と練習をする。) ・インタビュー活動② (フレンドTシャツを渡すペアの児童にインタビューをする。) 	<p>○「フレンドTシャツ」を作ることを確認し、意欲を高める。</p> <p>★尋ね方、答え方をデモンストレーションと板書を使って全体で確認し、適切な反応の仕方に気付かせる。</p> <p>○活動が行えていない児童に声を掛け、助言する。</p> <p>★活動途中に児童の中からよい例を示し、よりよい関わり方ができるよう声掛けをする。 【Here you are. Please. Thank you. Good! Very good! Nice T-shirt! Oh, cute! Beautiful. Cool!】</p>	ア
4	<p>◎「フレンドTシャツ」を発表し合うことで、友達に思いを寄せて、積極的に関わろうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューしたことを基に、「フレンドTシャツ」を作り、発表する。 ・ペアの児童にTシャツカードをプレゼントする。 ・感想を共有する。 	<p>★発表の仕方、聞き方をデモンストレーションと板書を使って全体で確認し、適切な反応の仕方に気付かせる。 【Here you are. Please. Thank you. Good! Very good! Good job! Nice T-shirt! Oh, cute! Beautiful. Cool!】</p>	ア イ

(6) 本時（全4時間中の第3時間目）

ア 本時の目標

好きな物は何かを尋ねたり答えたりして、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。

イ 本時の展開

	学習活動	○指導上の留意点 ●教材・教具 ☆やり取りに自信をもたせる工夫	学習活動に即した 具体的な評価規準 (評価方法)
導 入	1 挨拶する。 2 本時のめあてを知る。	○指導上の留意点 ●教材・教具 ☆やり取りに自信をもたせる工夫 ●振り返りカード ☆前時の振り返りカードの感想から、友達との関わりでよかったことなどを紹介する。	
	友だちにインタビューして、友だちのことをもっと知ろう！		
	3 前時までの復習をする。 ・フラッシュカードで、使用する単語の復習をする。 ・好きな物を尋ねたり、答えたりする表現の練習をする。	●絵カード ○英語の音に注意しながら、単語の練習をする。 ○いくつかのパターンで好きな物を尋ねる練習をさせ、表現に慣れさせる。	
展 開	4 友達にインタビューする。 (1) デモンストレーションを数回見る。(担任 - A L T、A L T - 児童、児童 - 児童など) A: What color do you like? B: I like green. A: Oh, Green! Nice color! What animal do you like? B: I like cats. A: Oh, cats. Cute! What shape do you like? B: I like star. A: Oh, star! That's good. Me too. Thank you. (2) 1対1になってインタビューする。 ・1回目は隣同士でインタビューする。 ・2回目は「フレンドTシャツ」を渡すペアにインタビューする。	○「フレンドTシャツ」を作ることを確認し、意欲を高める。 ☆尋ね方、答え方をデモンストレーションと板書を使って全体で確認し、適切な反応の仕方に気付かせる。(うなづき、相づちの他、相手の言葉を繰り返したり、感想を伝えたりする。) 【Good! Very good! Oh ~. Cute. Cool. Nice color!】 ☆前時の振り返りで、やり取りに自信がもてていない児童のペアを配慮したり、個別の言葉掛けを適切に行ったりする。 ●インタビューシート ☆活動途中に児童の中からよい例を示し、よりよい関わり方ができるよう声掛けをする。 ○途中で児童がより興味をもちそうな質問を増やす。	◇積極的に好きな物を尋ねたり、答えたりしようとしている。 【ア（観察）】
ま と め	5 本時の学習を振り返る。 ・活動を振り返り、カードに記入する。 ・数名の児童が発表する。 6 終わりの挨拶をする。	●振り返りカード ☆友達との関わりの中で気付いたことなどを書かせる。	

(7) 本時の板書計画

本時のめあて

単元計画

適切な反応の例

やり取りの例

コミュニケーションのポイント

1時間の流れ

(8) ワークシートの例

Activity②

☆「フレンドTシャツ」をプレゼントするペアのなだちにインタビューしよう!

My Friend's name

A/B: Let's Jyanken! Rock Paper Scissors 1.2.3!

勝ったほうからインタビュー

A: What **color** do you like?

B: I like ~

Color(色)	
Shape(形)	
Sports(スポーツ)	
Animal(動物)	
Fruits(くだもの)	
Seasons(季節)	

(第3時で使用)

Activity① Name _____

☆インタビューしたことをもとに友だちがよろこびそうなTシャツをデザインしよう!

To _____

~メッセージ~

From _____

(第4時で使用)

【検証授業2】(第5学年の実践)

(1) 単元名 “What’s this?” 「クイズ大会をしよう」

“Hi, friends! 1 Lesson7”

(2) 単元の目標 ア ある物について、積極的にそれが何かと尋ねたり、答えたりしようとする。

イ ある物が何かと尋ねたり、それに答えたりする表現に慣れ親しむ。

ウ 日本語と英語の共通点や相違点から、言葉の面白さに気付く。

(3) 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 外国語への慣れ親しみ	ウ 言語や文化に対する気付き
ある物について、積極的にそれが何かと尋ねたり答えたりしようとしている。	ある物が何か尋ねたり、それが何か答えたりする表現に慣れ親しみ、それらを用いながら活動している。	様々な物の言い方から、言葉の面白さに気付いている。

(4) 単元の内容

本単元では、“What’s this?” “It’s ~.”などの表現に慣れ親しみ、クイズを通して、ヒントを言ったり、答えたりする活動を通して、他者と関わり合い、コミュニケーションを図ることを「楽しむ」児童を育てることをねらいとした。クイズを出し合う活動は、ヒントを出し合ったりするやり取りの中で、相手の質問や答えに場や状況に応じた反応をすることで、より活発な関わり合いができると考えた。また、活発な関わりをもつためには、相手の発話に対し、共感する言葉を伝える必要がある。褒め言葉・励まし言葉を積極的に使ったり、ジェスチャーや表情で伝えたりすることで、相手意識がより明確になり、分かりやすく伝えようとする児童が育つと考えられる。

本単元の最終目的は、朝自習の時間に他のクラスへ行き、グループごとに英語でクイズを出すことである。相手意識をもって伝えるために必要なことを自ら考え、表現できる児童を育てていきたい。

(5) 単元の指導計画と評価計画

時	◎ねらい ・主な学習活動	○留意点 ★やり取りに自信をもたせる工夫	評価規準
1	◎外来語の面白さに気付く。 身の回りの物を表す語に慣れ親しむ。 ・物の一部を拡大した絵を見せ、“What’s this?”という尋ね方に親しむ。 ・ポインティングゲーム (一人)(ペア) ・チャンツ	○身の回りの様々な物の英語での言い方から、日本語との共通点や相違点など、言葉の面白さに気付かせる。 ○外来語と英語の発音の違いに気付かせる。 ★外来語と英語との発音などの違いに気付き、発表した児童を、皆で褒めたりする言葉を掛け合えるよう教員が手本として声を掛け、促す。 ★ゲームの相手に対して、うまくいった場合、うまくいかなかった場合の適切な反応の仕方ができている児童を取り上げる。 【Good job! Nice try! Close.】	ウ

2	<p>◎ある物が何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「バナナじゃなくて、Banana」チャンツで、様々な外来語と英語との言い方の違いに気付く。 ・ALTが行う様々なクイズを体験し、クイズ大会の参考にする。 <p>シルエットクイズ</p> <p>ALTは、絵カードのシルエットを見せ、それが何かを尋ねる。答えがすぐに出てこない場合は、ジェスチャーや言葉でヒントを与えてもいいことに気付かせる。</p> <p>ブラックボックスクイズ</p> <p>答える児童がブラックボックスの中に手を入れても、分からない場合は、他の児童が分かる英語でヒントを与える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回のクイズ大会に向け、クイズの絵を描いたり、ヒントを何にするか考えたりする。 	<p>○チャンツでは、ALTや担任が児童の反応を見ながら、速さや強弱を意識して発音することで、児童に真似しやすくし、英語と外来語の相違点に気付くことができるようにする。</p> <p>★様々なクイズをしていく中で、答えを当てた児童を褒めるだけでなく、分からない時に、ヒントやジェスチャーで助けた児童にも、褒める言葉を適切な反応の例の中から探し、皆で褒めたり励ましたりする言葉が掛け合えるよう促す。</p> <p>【Hint, please. That's right. Great! Close. Thank you. Good job.】</p>	イ
3 本 時	<p>◎ある物が何かを尋ねたり答えたりする中で、積極的に友達とコミュニケーションを図ろうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「バナナじゃなくて、Banana」チャンツ ・クイズ大会を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①デモンストレーションを見る。 ②隣の友達とやり取りの練習をする。 ③回転式の席に替え、クイズ大会をする。 ④時間になったら、外側の児童が二つ席を動かして、次々と相手が変わるようにする。 	<p>○不安なまま始める児童がいないように回り方、尋ね方、答え方をデモンストレーションと板書を使って、全体で何回か確認する。</p> <p>○クイズ大会中に、よりよい反応がしっかり言えたり、ジェスチャーができたりするように、ALTと担任で教室を回り、適宜助言する。</p> <p>★活動途中に児童の中からよい例を示し、よりよい関わり方ができるよう声を掛ける。</p> <p>【Hint, please. That's right. Close. Nice! Thank you. Wonderful.】</p>	ア
4	<p>◎他のクラスに行き行って行うクイズ大会の準備をする。相手意識を考えて問題を出したり、友達のよさに気付いたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰が、何年生に行くか、問題の難易度でグループ分けをする。 ・グループごとに、行った時を想定して、必要な表現を考えたり、ヒントを出したりする練習をする。 ・実際に他のクラスに行くと想定して、他のグループを相手にクイズを出してみる。出されたグループは、よかった点や改善した方がよい点を助言する。 	<p>○他のクラスで行うクイズ大会の準備をする。</p> <p>○友達のグループの発表を見て、よかったところや改善した方がよい点を助言し合うよう促す。</p> <p>★相手意識をもって、伝えることが大切であることに気付かせる。英語の約束①Smile ②Try & Enjoy ③Helpを大切にすることを確認する。</p> <p>【Good! Thank you. Very good! Please. Nice! Nice try! Close.】</p>	ア イ

(6) 本時（全4時間中の第3時間目）

ア 本時の目標

ある物が何かを尋ねたり答えたりして、積極的に友達とコミュニケーションを図ろうとする。

イ 本時の展開

	学習活動	○指導上の留意点 ●教材・教具 ☆やり取りに自信をもたせる工夫	学習活動に即した 具体的な評価規準 (評価方法)
導 入	1 挨拶する。 2 前時までの復習をする。 ・“What’s this?” の言い方の確認をする。 3 チャンツに取り組む。	●振り返りカード ☆前時の振り返りカードの感想から、友達との関わりで良かったことを紹介する。 ●「バナナじゃなくて Banana」チャンツ	
展 開	4 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">クイズやヒントを出したり、答えたりして、やり取りに慣れよう。</div> 5 クイズ大会をしよう。 (1)デモンストレーションを見る。 (2)やり取りの練習をする。 (3)回転式の席に替え、クイズ大会をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">A: Hello. What’s this? B: Hint, please. A: Hint 1! It’s vegetable. Hint 2! It’s long. Hint 3! It’s green. What’s this? B: It’s a cucumber. A: Good! B: My turn.</div>	○他のクラスでの「クイズ大会」に行くことを確認し、意欲を高める。 ☆デモンストレーションを数回行い、尋ね方や答え方を確認し、尋ね方や答え方だけでなく、関わり方のポイントにも気付かせる。(相づち、褒め言葉・励まし言葉) 【Good! Close. Nice! Please.】 ☆活動途中で、児童の中からよい例を示し、よりよい関わり方ができるよう声掛けをする。 ○相手をかえて、何度もクイズを出したり答えたりすることで、表現の言い方や反応の仕方に慣れる。	◇積極的にクイズを尋ねたり答えたりしようとしている。 【ア（観察）】
ま と め	6 本時の学習を振り返る。 ・活動を振り返り、カードに記入する。 ・数名の児童が発表する。 7 終わりの挨拶をする。	●振り返りカード ☆友達との関わりの中で気付いたことなどを書かせる。 ☆次時までには、振り返りでやり取りに自信をもてていない児童に、英語のやり取りの個別指導をする。	

(7) 本時の板書計画

(8) ワークシートの例

月曜日の「英語クイズ大会」に向け、自分のクイズを作ろう。

名前 ()

手順
①クイズの答えを考える。(日) → (英)

②ヒントを考える。
ヒント1 (日)
↓
(外 It's)
ヒント2 (日)
↓
(外 It's)
ヒント3 (日)
↓
(外)

※言い方が分からなかったり、難しかったりしたときは、ジェスチャーでもOK。
③周りが見られないように、絵をかく。
④2問目のクイズを作る。

手順
①クイズの答えを考える。(日) → (英)

②ヒントを考える。
ヒント1 (日)
↓
(外 It's)
ヒント2 (日)
↓
(外 It's)
ヒント3 (日)
↓
(外)

※言い方が分からなかったり、難しかったりしたときは、ジェスチャーでもOK。
③周りが見られないように、絵をかく。
④2問目のクイズを作る。

(第2時で使用)

月曜日の「英語クイズ大会」に向け、自分のクイズを作ろう。

名前 ()

手順
①クイズの答えを考える。(日 **きゅうり**) → (英 **cucumber**)

②ヒントを考える。
ヒント1 (日 **野菜**))
↓
(外 It's **vegetable.**))
ヒント2 (日 **長い**))
↓
(外 It's **long.**))
ヒント3 (日 **緑色**))
↓
(外 **It's green.**))

※言い方が分からなかったり、難しかったりしたときは、ジェスチャーでもOK。
③周りが見られないように、絵をかく。
④2問目のクイズを作る。

(教員による手本)

【検証授業3】(第5学年の実践)

(1) 単元名 “I study Japanese.” 「夢の時間わりを作ろう」
 “Hi, friends! 1 Lesson8”

- (2) 単元の目標 ア 時間割について積極的に尋ねたり答えたりしようとする。
 イ 時間割についての表現や尋ね方に慣れ親しむ。
 ウ 世界の小学校の学校生活に興味をもつ。

(3) 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 外国語への慣れ親しみ	ウ 言語や文化に対する気付き
時間割について積極的に尋ねたり答えたりしようとしている。	時間割についての表現や尋ね方に慣れ親しみ、それらを用いながら活動している。	世界の小学校の学校生活に興味をもっている。

(4) 単元の内容

本単元では、時間割についての英語表現や尋ね方に慣れ親しみ、「夢の時間割」を作り、友達と紹介し合う活動を通して、他者と関わり合い、積極的にコミュニケーションを図ることを「楽しむ」児童を育てることをねらいとした。「友達の考えた時間割が知りたい。」「自分が考えた時間割をみんなに伝えたい。」という思いがもてるような活動の場を工夫し、そのやり取りの中で、相手の発話に対し、共感したり、褒めたりする言葉を使うことで、より活発な関わり合いがもてると考えた。

また、世界の小学校の学校生活を知ることで、日本との違いや共通点に気付き、外国の文化に興味をもつきっかけづくりの単元としたい。

(5) 単元の指導計画と評価計画

時	◎ねらい ・主な学習活動	○留意点 ☆やり取りに自信をもたせる工夫	評価規準
1	◎世界の小学校の学校生活に興味をもつ。時間割についての表現や尋ね方を知る。 ・映像を見て、気付いたことを話し合う。 ・スリーヒントゲーム ・キーワードゲーム	○世界の小学校の学校生活の映像を見せ、日本との共通点や違いに興味をもたせる。 ○曜日の言い方を確認する。 ☆ゲームをしながら、互いを褒めたり励ましたりする言葉を掛け合えるように促す。 【Here you are. Thank you. Good job! Nice try! Have a nice day!】	ウ

2	<p>◎時間割についての表現や尋ね方に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“Not copy” ゲーム ALTと同時に“I study 教科.”を言い、一致したら座っていく。最後まで残った人は、自分の学びたい教科を発表する。 ・トークバトル ペアになり、“What do you study?” “I study 教科 on Monday.”のやり取りを制限時間いっぱい何度も繰り返し言う。 ・“Make a schedule” ゲーム ペアの友達に質問しながら、相手の希望する時間割を作る。出来上がった時間割を見て、よいところや共通点を探して伝え合う。 	<p>○1～6の序数の言い方を確認する。</p> <p>○ペアワークを多く取り入れ、発話量を増やし、時間割についての表現や尋ね方に慣れ親しませる。</p> <p>☆ゲームをしながら、互いを褒めたり励ましたりする言葉を掛け合えるように促す。</p> <p>【Here you are. Thank you. Good! Good job! Me too. Nice! Oh, ～. Oh, I see. Have a nice day!】</p>	イ
3 本 時	<p>◎学ぶ教科を尋ねたり答えたりして、積極的に友達とコミュニケーションを図ろうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トークバトル ・“Make my schedule” ゲーム School office staff member と Student に分かれる。Student は夢の時間割を考え、それに必要な教科を Staff member にもらいに行く。もらったカードで時間割を作成する。 	<p>○ゲーム中に、英語でのやり取りがしっかりと行われるように、ALTと二人で教室内を回り、適宜助言する。</p> <p>☆相手の話を認めたり、共感したりする言葉が掛け合えるように促す。</p> <p>☆活動途中に児童の中からよい例を示し、よりよい関わり方ができるように声を掛ける。</p> <p>【Here you are. Thank you. Good job! OK. Me too. Good! Nice! Oh,～. Have a nice day!】</p>	ア
4	<p>◎作った時間割を紹介し合うことで、友達の考えに関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“Presentation time” 一人ずつ自分が作った時間割とその理由を発表する。 	<p>○全員が発表できるようにする。</p> <p>☆友達の考えた時間割に興味をもち、よいところや共感したこと、発表の仕方でよかったところを伝えるように促す。</p> <p>【Here you are. Thank you. Good job! Nice! ～ is good! Me too.】</p>	イ

(6) 本時（全4時間中の第3時間目）

ア 本時の目標

学ぶ教科を尋ねたり答えたりして、積極的に友達とコミュニケーションを図ろうとする。

イ 本時の展開

	学習活動	○指導上の留意点 ●教材・教具 ☆やり取りに自信をもたせる工夫	学習活動に即した 具体的な評価規準 (評価方法)
導 入	1 挨拶する。	☆前時の振り返りカードの感想から、友達との関わりでよかったことを紹介する。 ●CD、歌詞カード ○本時の内容を単元計画とともに確認し、学習の見通しをもたせる。	
	2 今月のチャレンジソングを歌う。 3 本時のめあてを知る。		
夢の時間わりを作ろう！			
展 開	4 前時までの復習をする。 ・フラッシュカードで学ぶ教科を尋ねたり、答えたりする表現を練習する。 5 “Make my schedule” ゲーム (1)デモンストレーションを数回見る。(担任・ALT、ALT・児童、児童・児童など) A: School office staff member B: Student	●絵カード ○テンポよくQ&Aを繰り返し言わせる。(学級全体→ペア) ●ワークシート ○夢の時間割を作ることを確認し、意欲を高める。 ☆デモンストレーションを数回行い、尋ね方や答え方を確認し、適切な反応の仕方にも気付かせる。 【OK. Me too. Good! Nice! Oh,～. Have a nice day!】 ☆活動途中に児童の中からよい例を示し、よりよい関わり方ができるように声掛けをする。	
	(2)前半と後半に分かれ、AとBの立場でやり取りをする。	A: Hello. B: Hello. What do you study? A: I study Japanese on Monday. B: Why? A: Because I like books. B: Me too. Here you are. / Sorry. I don't have it. A: Thank you. B: Have a nice day.	
			◇時間割について積極的に尋ねたり答えたりしようとしている。 【ア(観察)】
ま と め	6 本時の学習を振り返る。 ・活動を振り返り、カードに記入する。 ・数名の児童が発表する。 7 終わりの挨拶をする。	●振り返りカード ☆友達との関わりの中で気付いたことなどを書かせる。	

(7) 本時の板書計画

本時のめあて

1時間の流れ

適切な反応の例

やり取りの例

単元計画

(8) ワークシートの例

Grade () Class () Name _____

What do you study? I study ___ on ____.

ルール

- ・話すときはもちろん英語で！でも書くのは日本語で書きます。
- ・2時間続きで同じ教科でもOK！
- ・ペアと交代しながら、月～金までのお互いの時間わりを聞き取って、表を完成させよう！

自分の時間わり *日本語で書く

	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					

(第2時で使用)

Grade () Class () Name _____

夢の時間わりをつくろう！

1	 P.E.
2	 science
3	 home economics
4	 Japanese
5	 math

ルール

- 15時間授業をつくれます。もらったカードはのりではろう！
- 同じ教科は入れられません。
- ほしい教科カードが2回続いたら、ALTの先生のところへ行ってカードをもらおう。

arts and crafts

(第3時で使用)

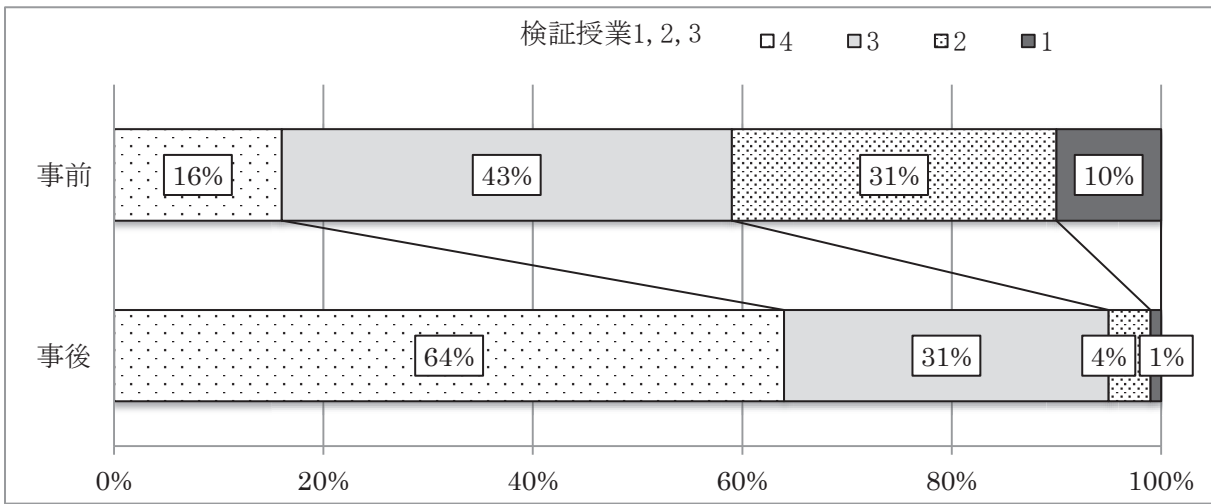
2 検証方法と結果

三つの授業において、「やり取りに自信をもたせる工夫」を検証するために、児童の事前・事後アンケートと振り返りカードを分析した。

(1) 事前・事後アンケートより

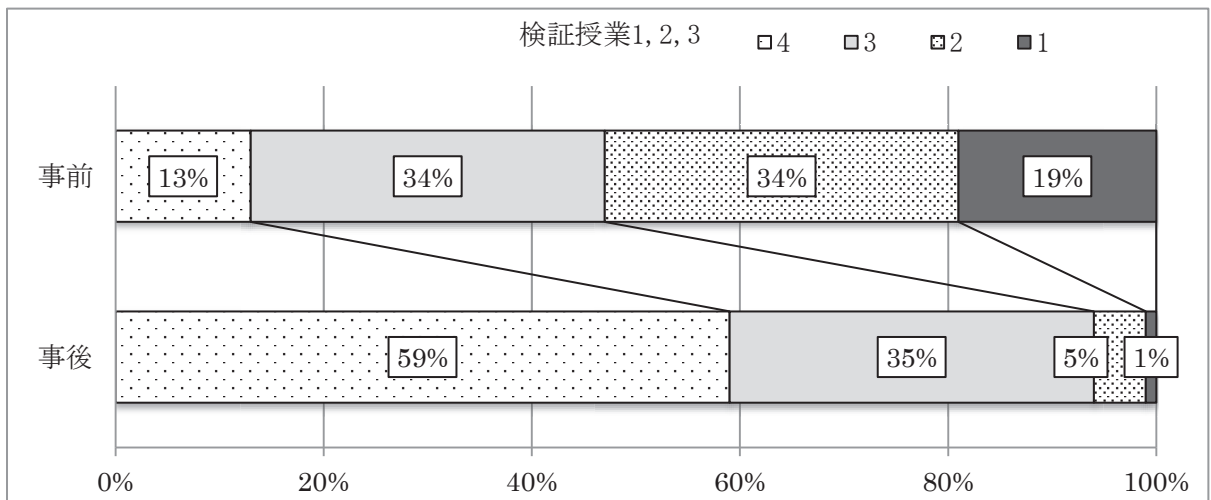
[平成 28 年度教育研究員（小学校 外国語活動）の検証授業を受けた児童 91 人に実施]

- 【質問 1】友達とのやり取りで、相づちやジェスチャーなどを加えて反応しようとしたか。
- | | |
|----------------------|-------------------|
| 4 しようとした | 3 どちらかといえば、しようとした |
| 2 どちらかといえば、しようとしなかった | 1 しようとしなかった |



肯定的な回答（「4 しようとした」「3 どちらかといえば、しようとした」）をする児童が、36 ポイント増え、95%になった。

- 【質問 2】英語を使って、友達をほめることができますか。
- | | | | |
|-------|---------------|----------------|--------|
| 4 できる | 3 どちらかといえばできる | 2 どちらかといえばできない | 1 できない |
|-------|---------------|----------------|--------|



肯定的な回答（「4 できる」「3 どちらかといえばできる」）をする児童が、47 ポイント増え、94%になった。

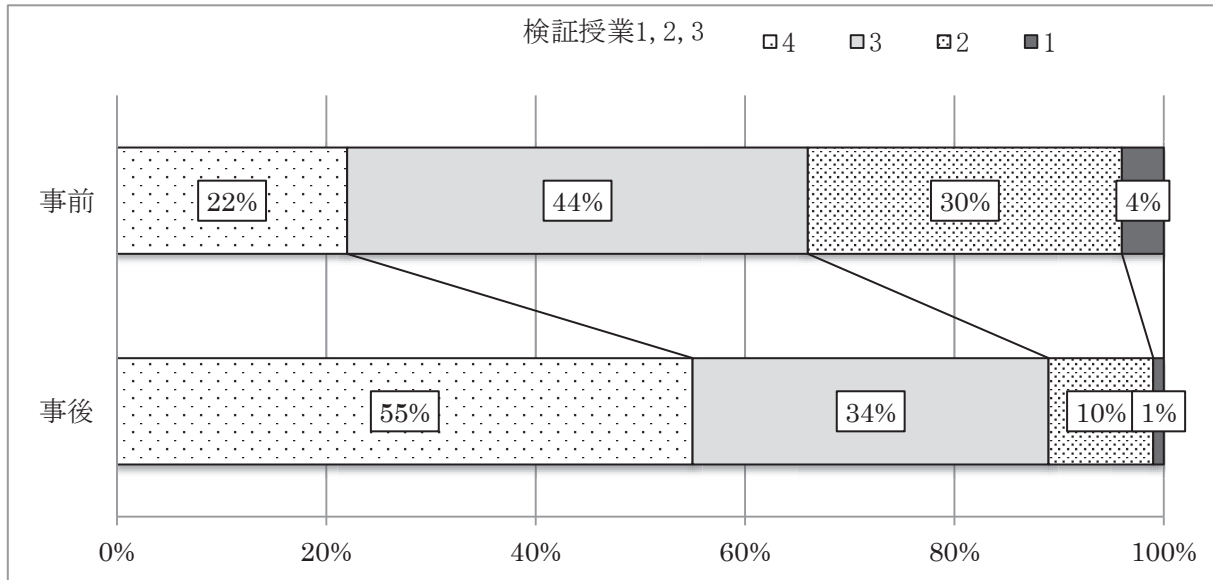
【質問3】 英語を使って、自分の思いや考えを積極的に伝えようとしていますか。

4 しようとした

3 どちらかと言えば、しようとした

2 どちらかと言えば、しようとしなかった

1 しようとしなかった



肯定的な回答（「4 しようとした」「3 どちらかと言えば、しようとした」）をする児童が、23ポイント増え、89%になった。しかし、事後アンケートにおいて、否定的な回答（「2 どちらかと言えば、しようとしなかった」「1 しようとしなかった」）をする児童が11%いた。

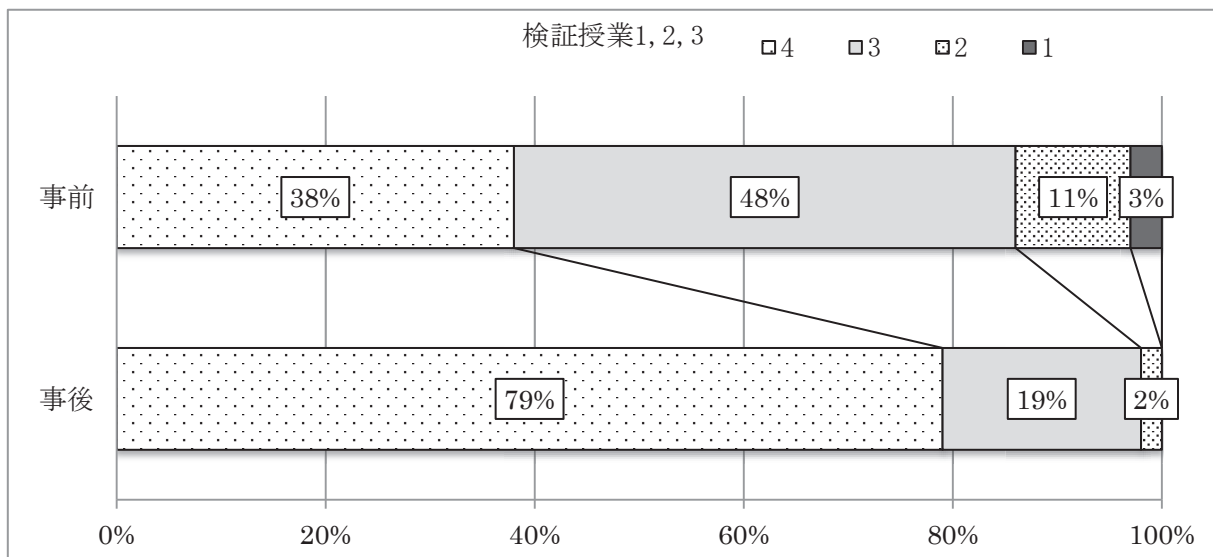
【質問4】 英語を使って、友達とやり取りするのは楽しいですか。

4 楽しい

3 どちらかと言えば楽しい

2 どちらかと言えば楽しくない

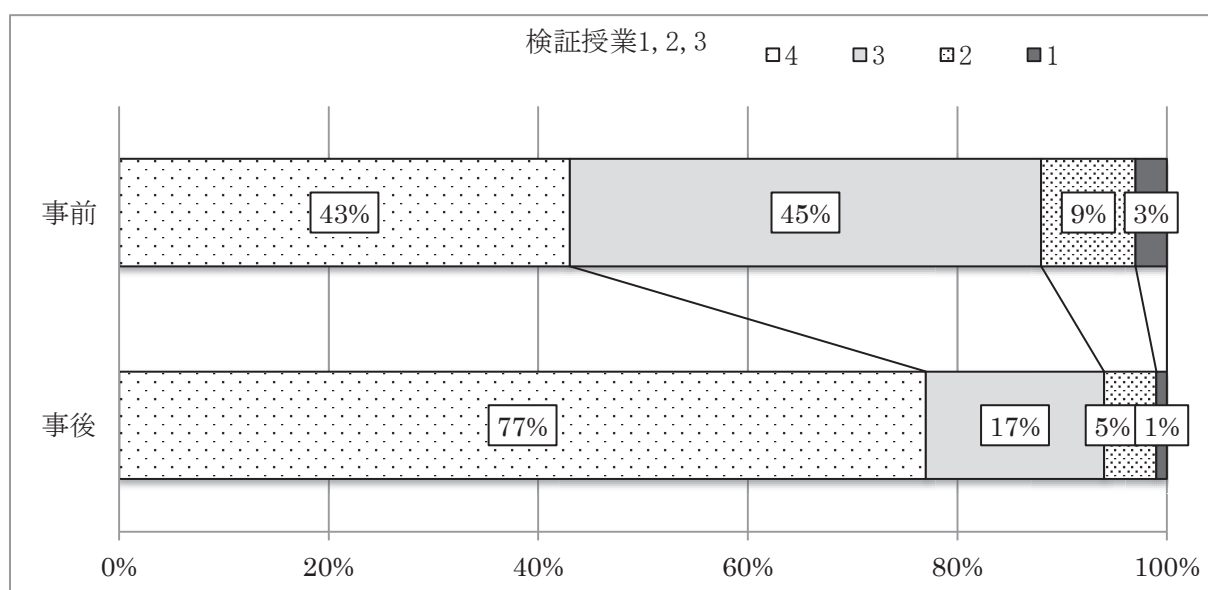
1 楽しくない



肯定的な回答（「4 楽しい」「3 どちらかと言えば楽しい」）をする児童が12ポイント増え、98%になった。

【質問5】英語をもっと学習したいですか。

4 したい 3 どちらかと言えほしい 2 どちらかと言えほしくない 1 したくない



肯定的な回答（「4 したい」「3 どちらかと言えほしい」）をする児童が6ポイント増え、94%になった。

【質問6】振り返る活動をしたことで「よかったな。」と感じたことは、どんなことですか。

検証授業 1	検証授業 2	検証授業 3
<p>【次へのつながり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次の時間の目標を立てられること。 ・ どこがよかったか悪かったかが分かり、修正できること。 	<p>【次へのつながり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りをする中で、自分の反省点やよかったことが分かること。 ・ 自分が褒めたり、友達に褒められたりすることで、自信がついてきた気がする。 	<p>【次へのつながり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の言えなかった言葉を振り返ると、次の授業が活発にできること。 ・ 振り返りをしたら、先生からアドバイスがあること。
<p>【友達とのつながり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなと「好きな色、形など意外だったね。」などと話していると、友達との距離が縮まった気がしたこと。 ・ 友達や先生に褒めてもらえること。 ・ 振り返ると、友達のことがよく分かること。 	<p>【友達とのつながり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の頑張っているところが聞けること。 ・ 分からない友達に教えてあげたら、発表の時に言ってくれたこと。 	<p>【友達とのつながり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分がインタビューできなかった友達の事もいろいろ分かること。 ・ 振り返ることで友達のよいところを真似できるし、書くことで、自分のよいところをより実感できること。

(2) 振り返りカードより

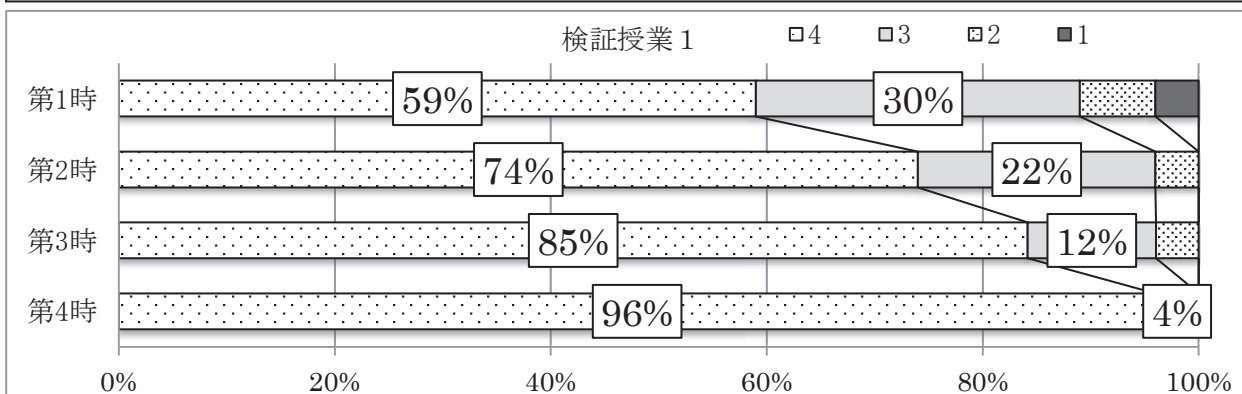
【質問7】めあてが達成できましたか。

4 達成できた

3 どちらかと言えば、達成できた

2 どちらかと言えば、達成できなかった

1 達成できなかった



検証授業1の結果を見ると、授業を重ねるごとに回答3、回答4の割合が増えている。また、回答1、回答2の割合がだんだん減り、第4時には0%になっている。

【質問8】自分が頑張ったこと、友達のよかったところ、今日学んだこと、感想などを書きましょう。

- ・みんなが先に相づちをしたり褒めたりしていたので、自分もやってみた。
- ・英語でインタビューすると楽しいし、成長した気がした。
- ・褒める言葉をみんな使っていて、クラスの雰囲気よくなった。
- ・クラスみんなが、友達の発見したことに対して反応していたのでよかった。
- ・この学習を通して、英語がぺらぺらでなくても、笑顔で楽しく会話すればコミュニケーションを取れることが分かってよかった。
- ・友達とたくさんのやり取りができるようになってうれしい。

(3) 検証結果について

コミュニケーションにおける適切な反応の仕方が身に付いたために、友達とやり取りすることを「楽しい」と感じた児童が増えていることが分かる。感想の中に「たくさんのやり取りができるようになった。」とあり、一方通行ではなく、質問されたり答えたりしてやり取りを続けられるようになってきたことに喜びを感じていることが分かる。自分の思いや考えを積極的に伝えようとした児童が増えた要因としては、相手が適切な反応をしてくれることにより自分の思いや考えが通じていると感じられることなどが挙げられる。それらにより、児童がやり取りに自信をもっていると考えられる。

また、振り返りを行うことで、単元の後半には、より多くの児童が学習のめあてを達成できる支援ができるようになった。やり取りに自信をもたせるための手だてとしては有効であると考えられる。

VIII 研究の成果と課題

1 成果

成果として、以下の二点が考えられる。

(1) 外国語を用いたコミュニケーションにおける適切な反応の仕方を指導すること

検証授業1では、相手意識をもってフレンドTシャツを作る活動、検証授業2では、クイズ大会を通して、ある物を尋ねたり答えたりする活動、検証授業3では、時間割づくりをするために教科を尋ねたり答えたりする活動を行った。全ての検証授業において、「相手との関係を円滑にする」方法として“Thank you.”(礼を言うとき)、“Good.”“Nice.”“That’s right.”(褒めるとき)、“～, please.”(丁寧表現)など、外国語を用いた応答の仕方を事前に指導した。また、やり取りの際には、言語による表現の他に非言語での反応、身振り手振りも適切な反応の一つであることを伝えた。どのような時にどのような言葉や反応を返せばよいのかということが理解できたことで、児童は自信をもって積極的にコミュニケーション活動に取り組めるようになってきたと考えられる。

上記のことは、以下のアンケート結果にも表れている。

- ・【質問1】「友達とのやり取りで、相づちやジェスチャーなどを加えて反応しようとしたか。」という質問に対して、肯定的な回答(「4しようとした」「3どちらかと言えば、しようとした」)をする児童が、36ポイント増え、95%になった。
- ・【質問2】「英語を使って、友達をほめることができますか。」に対して、肯定的な回答(「4できる」「3どちらかと言えばできる」)をする児童が、47ポイント増え、94%になった。
- ・【質問4】「英語を使って、友達とやり取りするのは楽しいですか。」という質問に対して、肯定的な回答(「4楽しい」「3どちらかと言えば楽しい」)をする児童が12ポイント増え、98%になった。

一問一答で終わるコミュニケーションではなく、適切な反応が返ってくることで「自分の考えが伝わった。」という喜びを感じられるようなコミュニケーション活動を経験することは、外国語を用いたコミュニケーションを図ることを「楽しむ」児童を育成する上で重要であると考えられる。

(2) 振り返りを生かす工夫をすること

毎回の授業の終わりに簡単な振り返りカードを書かせた。内容項目は、「めあてが達成できたか」「英語を使って友達をほめたり、友達とのやり取りで相づちやジェスチャーを使って反応できたりしたか」「自分のがんばったこと・友達のがよかったところ」「今日の授業で学んだこと」の4点である。

教員は振り返りカードを基に、苦手意識をもつ児童の把握や授業の課題を確認することができた。児童に書かせた振り返りカードは、次時を迎える前や授業の中での個に応じた支援に活用した。それにより、児童の不安を取り除き、積極的かつ自信をもってコミュニケーション活動を「楽しむ」ことができるようになった。また、授業の開始時に振り返りカードからよい気付きを抜粋して、教員が読み聞かせることで、発表された児童は更に自信をもち、他の児童にとっても授業のめあて等を明確に意識して活動できるようになった。

上記のことは、【質問6】「振り返る活動をしたことで「よかったな。」と感じたことは、ど

んなことですか。」という質問に対する、児童の回答からも分かる。例えば、「次の時間の目標を立てられること。」「どこがよかったか悪かったかが分かり、修正できること。」「自分が褒めたり、友達に褒められたりすることで、自信がついてきた気がする。」「振り返りをしたら、先生からアドバイスがあること。」等の回答があった。

以上、二点において、手だてを工夫したことにより、児童が外国語を用いた友達とのやり取りに自信をもち、コミュニケーションを図ることを「楽しむ」ことにつながったと考えられる。これは、友達とのコミュニケーションを通して、相手の思いが理解できた、自分の考えが伝わったという、うれしさや喜びを感じる児童の育成という本研究の目指すところである。

2 課題

本年度の研究では、やり取りに自信をもたせるために、相手の言ったことへの適切な反応の仕方を指導したり、振り返りを生かす工夫をすることでやり取りに自信をもてていない児童へ個別の指導や支援をしたりした。その結果、成果でも述べたように、外国語を使って、友達とやり取りすることを楽しいと感じる児童が増えた。

しかし、【質問3】「英語を使って、自分の思いや考えを積極的に伝えようとしていますか。」に対して、事後アンケートにおいても否定的な回答（「2どちらかと言えば、しようとしなかった」「1しようとしなかった」）をする児童が11%いた。

今後は、外国語を使って、友達とやり取りするのは楽しいと感じる気持ちから、自分の思いや考えを積極的に伝えようとする態度につなげていくことが課題である。

その解決の方策として、外国語による表現や非言語によるコミュニケーション方法に対する更なる慣れ親しみが考えられる。教員やALTから聞く外国語の表現や他教科等から得た知識を外国語では何と表現するかということについて、児童の興味・関心は高い。今後は、発達段階に応じて適切な反応に加えて、児童の興味・関心を踏まえた上で外国語の表現を増やす指導も必要であると感じた。また、やり取りの中で適切な反応が使える場面を意図的に設定することも有効であると考えられる。さらに、学年や学習状況に応じて、系統的・計画的に繰り返し指導し、伝える手段の幅を増やすことや、教員も積極的に外国語を使って褒めたり、デモンストレーションの中で適切な反応を意図的に見せたりすることにより、範を示すことも児童にとっての学びと自信につながるだろう。

[引用文献及び参考文献]

○引用文献

- 文部科学省（2016）「教育課程部会 外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ」
- 文部科学省（2013）「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」
- 文部科学省（2011）「小学校外国語活動における評価方法等の工夫改善のための参考資料」
- 文部科学省（2011）「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」
- 文部科学省（2008）「小学校学習指導要領解説 外国語活動編」
- 文部科学省（2008）「小学校学習指導要領」
- 東京都教育委員会（2016）「東京都教育ビジョン（第3次・一部改定）」
- 東京都教育委員会（2015）「平成26年度教育研究員研究報告書 小学校・外国語活動」
- 東京都教育委員会（2014）「平成25年度教育研究員研究報告書 小学校・外国語活動」
- 東京都教育委員会（2014）「小学校外国語活動の一層の充実に向けて」

補足資料

1 振り返りカード

REFLECTION SHEET① GRADE () CLASS () NO. () / /

NAME _____

めあて

①めあてが達成できましたか。

達成できた どちらかといえば達成できた どちらかといえば達成できなかった 達成できなかった

◇4 ◇3 ◇2 ◇1

②英語を使って友達をほめたり、友達とのやり取りで相づちやジェスチャーを使って反応したりしましたか。

した どちらかといえばした どちらかといえばしなかった しなかった

◇4 ◇3 ◇2 ◇1

自分のがんばったこと・友達のがよかったところ

今日の授業で学んだこと

2 適切な反応の表現例



児童が、前回と比べて自分自身の成長を実感できるように、このカード4枚分を、B4サイズ1枚にまとめた。

言葉に対するイメージをもちやすいように、言葉の横に表情のイラストを付けるとよい。

児童と一緒に楽しく言葉を増やすことができる。

平成28年度 教育研究員名簿

小学校・外国語活動

学 校 名	職 名	氏 名
中央区立月島第一小学校	主任教諭	田 中 貴 子
港区立白金小学校	主任教諭	◎ 鈴 木 康二郎
大田区立蒲田小学校	主幹教諭	可 児 亜希子
立川市立若葉小学校	主任教諭	佐 野 吾由美
三鷹市立高山小学校	主任教諭	亀 山 宏 美

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課
指導主事 久保田 直人

平成28年度

教育研究員研究報告書
小学校・外国語活動

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成28年度第142号〕

平成29年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 株式会社オゾニックス